

だっしゅ!

2014年5月2日発行 第4号
自治労北海道日高地方本部青年部
発行責任者 深川光彦（日高町職）

2014年 自治労北海道本部青年部 座長養成講座

2014年3月1日・2日の2日間に渡り、自治労北海道本部青年部座長養成講座が札幌の自治労会館で行われ、全道各地より仲間が集結！

日頃の活動の中で悩みや不満は言い合えるものの、なかなか「なぜ、そのような状況になっているのか？」「そのことについて仲間はどのように思っているのか」など深い議論ができていない現状がある。今回の座長養成講座ではより具体的な討論をかわすことができるように座長としてどのようなことが必要かを学んだ。



道 本部青年部の瀧口部長の挨拶では「人・もの・金」を大胆に動かすアベノミクス。それにより一部の企業では、賃金アップがなされ、一見経済効果はあるように見える。しかし、支出の増加に伴い企業の98.9%、民衆の約7割に影響がでていると警鐘を鳴らした。

続 いて社青同北海道地本委員長の羽場尚樹氏より「職場での合理化はどのようにつらめかれているか」というテーマで講演が行われた。羽場氏は「カエル」は熱湯に入れられるとびっくりして飛び出して無事ですが、水に入れ徐々に温度を上げていくと熱さに気づかず死んでしまうという「ゆでガエル」の話を出し、徐々に変化していく労働環境について敏感に反応していかななくてはならないと話す。

2006年に行われた給料構造の見直しにより、約1800万円の生涯賃金が削減された。今また給料制度の総合的見直しによって給与水準が2.5%引き下げられようとしている。「無関心ではいられても無関係ではられない」ゆでガエルにならない為には皆で学び、話し合う必要があると感じた講演であった。





分散会ではアンケートをもとに自分の職場の現状を確認しながら、座長に必要なことについての話し合いが行われた。筆者のグループでは分散会に初参加する仲間もあり、話し合いのなかで「自分は今まで残業を付けられず残業代が出ていないのは仕方ない、こういうものだと思っていたが他の市町村ではそうではないことを知って驚いた」との気づきがあった。また、そこから「残業をつけないと実績が残らず残業の実態が上司が把握できないのでは？」

「残業をつけるのはその上司による」「なぜそのような実態になったのか？そもそも人は足りているの？」等議論が白熱した。また、ある市では教宣で残業をとりあげた結果、管理職より残業代をしっかりと出すので同いを出してくれとの発言を勝ち取ったとの報告もあった。声に出さなければ変わらない。まずは実態把握から始めよう。

～分散会のポイント～

- まずは皆でアンケートを読み込もう！ 気になるところは赤ペンチェック！
- 「大変だね～」では終わらない。仲間の声にこだわり「なぜそうなっているのか？」
「どうしたら良いか」を話し合おう！
- アンケートは無理に全部話さなくてもOK！ 気づいたことを深めよう！
- うまく話を進めようとしな！ 仲間が仕事に戻って活かせるように！
- 座長しか話していない分散会はつまらない！ 皆が話せるように！
- 静寂を大切に！ 皆が考える時間も大切！
- 時には休憩や脱線も必要！ 自由に話し合っ交流を大切にしよう！



2日目は、引き続き分散会が行われた後に分散会報告があり、それに対しティスカッションが行われた。

その後、道本部青年部樋口副部長により集約があり、全2日間の日程が終了した。

編集後記

発行が遅くない新年度が始まってもう1ヶ月が過ぎてしまいました。(反省)

さて、もう5月ですが新しく職員になられた方、本当におめでとうございます。もう職場には慣れた頃でしょうか？ 私たち日高地方本部青年部は働きやすい職場づくりを目指して活動しています。みなさん共に頑張りましょう。